

週目点

川本 裕子 早稲田大学教授



▶新北九州空港が開港

需要予測には疑問も

十六日、新北九州空港（北九州市）が開港する。周防灘に突き出た人工島のため現在の北九州空港に比べて騒音が少なく、早朝や深夜帯にも離着陸できるようにする。羽田―北九州路線の便数は三倍強の一日十七便に増える。

ただ、需要予測には疑問が残る。北九州市は年間約百万人を見込んでいるが、現北九州空港の年間利用者は約三十万人。福岡空港など周辺空港の利用者との競合は避けられない。便数の多い首都圏の空港発着枠の動向もにらんで、冷静で客観的な見通しを立てる必要があるようだ。

先月開港した神戸空港も関西国際空港や大阪国際（伊丹）空港との競合が議論を呼んだが、インフラ整備ありきという考え方が残っていないか。広域的な地域経済の発展をにらんだ戦略を作るときだ。そのためには交通インフラの役割分担を描くことが欠かせない。広域圏内で複数の空港を一元的に運営することも必要かもしれない。

(C) 日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。